

東日本大震災からの復興と 宮城大学学生ボランティアグループ @GREEN の歩み



東日本大震災からの復興と

宮城大学学生ボランティアグループ@GREENの歩み



【概要】

2011年の東日本大震災後に建設された「あすと長町仮設住宅」では、当時、仙台市の委託を受けた一般社団法人パーソナルサポートセンター（PSC）が入居者の生活支援を行っていた。入居者には高齢者が多く、身の回りでの生きがいを奪われた形で生活全般に活気が出ないため、健康面で心配があった。また、「あすと長町仮設住宅」は岩手県から福島県までの広範な地域から避難し、従前の社会とは切り離された雑居状況で構成されていたため、コミュニティがうまく機能できず、お互いに助け合ったり、協働作業を行う機会が少ないという問題もあった。そこで、2011年11月ごろ、PSCより、宮城大学食産業学部と連携して、農作業により入居者同士の交流を図り、さらに、収穫した生産物を用いて食生活の改善につなげたいという提案があり、2012年1月より栄養改善学会の支援を受けて被災者の支援を行うことになった。この活動に、多数の学生が参加を希望し、@GREENという団体名をつけて任意団体として活動を始めた。グリーンには農業や植物などの緑のイメージの他に、平和やエコ、クリーン等の意味もあって名付けられた。

2012年3月、本学附属農場を利用して農作業をすることを決定、月2回のペースで被災者の方が集まり、作付から収穫までを行った。また、本学加工棟を利用して月1回のペースで加工食品を作り、調理や栄養への関心を高める活動も実施した。大学祭では被災者が作った加工品を販売し、被災者の大きな自信となったと同時に、新聞等にも取り上げられ、学生ボランティア団体が学長奨励賞を受賞するなど大きな成果となった。

仮設住宅に住む被災者には高齢者が多いことから、農作業には体力的な問題があること、猛暑や悪天候時に屋外での作業は危険が伴うことから、2013 年からはガラス温室を利用したハウス栽培作業に切り替えることとした。しかし、このころから宮城県における被災者支援活動はだんだん下火となり、PSC も規模縮小され、それまでのように被災者を送迎できなくなった。当初は送迎がなければ参加しないという人が多く、活動の存続が危ぶまれたが、一転、活動の意義を認めて自家用車の相乗りなど被災者同士の助け合いが始まり、この後現在まで各自が自分の力で大学まで来て活動に参加されるようになったことは、被災者の自立という意味で大きな意義があった。この年の大学祭では地元食材を活用し、油麭井を販売、再びメディアにも取り上げられた。また、そのころ、被災地の現状を訴え、被災地の生産品販路拡大のため、兵庫県立大学の学生ボランティアグループとの連携が始まった。

2014 年に入り、園芸活動にフラワーアレンジメントやリース作りなども取り入れ、さらに、震災後 3 年たってようやく「前に進みたい」という意欲が出てきたという新参加者が増えてきた。復興住宅が建ち始め、仮設を出る人もあったが、その後もお互いに連絡を取りあい、助け合うよい関係が維持されていた。2014 年は大学祭で加工品とともに被災者が作ったクラフトも販売し、好評のうちに完売した。

最初の 3 年の間には、参加者の中に伴侶を見送ったり、病気で同居家族を施設に入れたりという経験をしている人もあった。そんなとき、閉じこもらずに(表面的にでも)明るく過ごしてこれたのは、この活動によるところも大きいと考えられた。

2015 年度には、本活動が仙台市の目に留まり、仙台市長の奥山恵美子氏が訪問され、被災者と共に餅つきを楽しみ、その後学生と座談会が持たれた。参加した学生は緊張の面持ちであったが、引っ込み思案な自分を乗り越えたいと思って活動に参加したことや、被災者に喜んでもらえることがとても励みになったことなどの発言があった。2016 年 12 月にあすと長町仮設住宅のプレハブは解体され、復興住宅(市営住宅)が建設されて住民はそれぞれの場所に居を移した。もともと住んでいた南三陸や岩手に自宅を再建し、帰られた方もあるが、亘理に転居後も続けて通ってこられている被災者もおられた。

2015 年から@GREEN は活動の幅を広げ、学内の学生への食育活動として朝ごはんを提供する朝ごはんフェアを始めた。被災者支援活動で作ったパンやスープを学生に提供しているが、被災者のやりがいにもつながっている。2017 年からは、さらに復興住宅でのコンメンミール活動に参加を始めた。NPO つながりデザインセンターの活動である「あすと食堂」のメンバーとなり、年 2 回はメインシェフとして献立立案から担当して食事を提供している。

この間、復興局のワークショップや学生ボランティア活動の集会などにも積極的に参加し、活動報告を行ってきた他、(財)学生サポートセンターの活動助成に 2 度採択されており、東京で表彰を受けている。また、宮城大学学長奨励賞も 2 度受賞している。

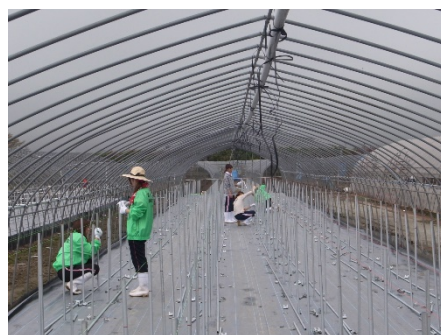
第1章 2011年～2012年



【当時の在学生自宅（石巻）】

2011年3月11日、東日本大震災が発生。宮城大学では建物・機器類に被害を受け、約2週間停電。水道の復旧は3月末であった。被災した学生も多数あり、新年度の開始はGW後となった。復旧活動が始まる中、宮城大学の学生達はボランティアとして避難所で働いたり、大学が組織したボランティアバスで石巻などのがれき撤去を手伝った。食産業学部はその専門を生かす形で、農家の支援も行い、ハウスの再建などにも力を発揮した。

8月になり、太白区あすと長町に仮設住宅が建設された。宮城大学食産業学部からもっとも近い仮設住宅で、大学としてもなにかできることはないかと考えていたところ、(財) パーソナルサポートセンターからあすと長町仮設住宅支援についての相談を受けた。当時、太白区役所であすと長町仮設住宅の管理に關係していた市職員が、宮城大学食産業学部学生の保護者であり、PSCの目的に食産業学部が役に立つだろうということのでつないでくれたものであった。あすと長町仮設住宅は、南三陸や岩手など、他地域から入居された被災者が多く、当初近所づきあいが円滑に進まなかった。最初の数か月で、閉じこもりがちになったり、住民同士のいざこざや健康問題など様々な課題が顕在化した。仙台市から見回り事業を委託されたPSCは、健全なコミュニティを形成するために、「住民が一緒に屋外で作業する」活動がよいのではないかと農業を考えたという。最初にPSCから協力を要請されたのは、貸農園などで被災者が農業を行う際に、指導や助言がほしいというものであった。PSCはあすと長町に近くて農業ができそうな土地を探して歩いたが、なかなか貸してくれる人が見つからなかった。耕作放棄地に近い土地でも、簡単に人に貸すことはできないのが心情である。やっと見つかったのは徒歩ではアクセスできない上に水道や機材の導入に難がある物件だった。しかし被災者の多くは高齢で、津波で自家用車を失っている。現実的にはこの企画を実施するのは無理に思われた。そこで、私は宮城大学の附属農場を利用することを提案してみた。附属農場なら畑も機材もすべてそろっている。課題はあすと長町から坪沼までの移動手段だったが、支援団体の一つが引き受けてくれて、2012年3月に現地の視察にこぎつけた。一方、この活動を始めるにあたり、学生ボランティアが必須となる。講義などで呼びかけたところ、数十名が自ら希望して集まった。学生は自主的にミーティングを開き、リーダーを決めて、「参加できる日に



【農業ハウス再建を手伝う学生たち
(亘理)】

参加できる学生が参加する」というスタイルで活動が始まった。グループの名前を「@GREEN」としたのは、この初代のメンバーである。グリーンには緑・農業・植物という意味以外に、「クリーン」「平和」というイメージがあり、震災からの復興に役に立ちたいという学生たちの願いがこめられた名前であった。

宮城大学食産業学部には、食材生産から加工・流通・販売・消費・リサイクルまで一連の流れを実習できる圃場・食品加工棟・リサイクル棟などがある。農場での作業に加え、収穫した農産物を加工する実習を行い、被災者の栄養改善にも役立てようと、2012年5月からは食素材利用学研究室の石田光晴教授の指導を仰ぎ、一か月に一度の加工活動を始めた。加工実習では、ソーセージ、みそ、パンなどをみんなで作り、できあがったものを一緒に食べておしゃべりしたり、お土産に持ち帰って自宅で家族と賞味いただいたりして、非常に喜ばれた。6月には太白区役所が実施した「緑のカーテンプロジェクト」にボランティアとして加わり、仮設住宅にゴーヤの苗を植えて快適な住環境への貢献を果たしたが、その活動には15名のメンバーが参加した。10月には大学祭が開かれ、被災者と学生と一緒に模擬店を出店、農場でとれたカボチャを使ったクッキーを販売し、売り上げを被災者に還元した（資料参照）。また、当時仙台駅近くの商店街で週末に開かれていたマルシェで附属農場の野菜を販売し、被災者の方に売り子を務めていただいたこともあった。生産から販売までを体験して、これらの活動を楽しみ・励みにしているとの感想が寄せられた。2012年度の学長奨励賞を受賞。



【ゴーヤを植える（あすと長町仮設住宅）】

初代代表：小笠原聡美

第2章 2013年

2013年になり、宮城大学が兵庫県立大学と共同教育連携協定を結んだ関係で、兵庫県立大学の学生ボランティアグループ「ブリッジ」との交流が生まれた。兵庫は1995年に阪神淡路大震災を経験しており、復興活動に学ぶところが多い。ブリッジのメンバーは、自らバスを手配し、何度も東北にボランティアに来てくれていた。その活動の中に、被災者が生産したものを関西で販売するという企画があり、@GREENの協力が求められた。5月には本学にて共同ワークショップを開催し、来仙できなかったブリッジメンバーは神戸に集まり、スカイプでつないでミーティングを行った。この交流はお互いの大学祭で「東北物産展」を行うという形で結実した。@GREENメンバーを含む宮城大生は兵庫県立大学の商大祭に参加し、被災地の生産物を販売した。

【参加学生による報告】

兵庫県立大学の大学祭で、あすと長町仮設住宅で被災者の方々の手によって作られた縫い

ぐるみ「ころころにこまる」の販売を行った。この縫いぐるみは被災者の方々が羊毛を石鹸を使って手で丸めて作ったもので、一部は染色に草花などを使っている。縫いぐるみづくりは仮設住宅でのコミュニケーションの形成と就労支援という二つの目的を持っていて、売り上げの40%が被災者の給与となる。

今回兵庫県立大学で販売を行えるようになった経緯は、以前から@GREEN やみやぎ食の応援団と交友のあった Bridge が東北物産展“ENCAN”という活動を行っており、この活動の目的と、私たちのにこまるの販路の拡大をしたいという思いが合致したため、というものである。

今回はにこまるを20個持っていったが、早い段階で売切ることができた。店舗に置いてすぐの頃は興味を持ってもらえなかったが、上に書いたようなにこまるについての説明をさせてもらい、被災者支援の活動であるということを伝えと、それならばと購入してくれる人が多かった。これが今回の活動で一番の成果だと考えており、兵庫まで足を延ばしてよかったと思う点であった。ただ品物を郵送し販売してもらうのではなく、被災地を知り品物だけでなく被災地についても話をするができる人間が会話とともに販売を行うことが大いに意味があった。兵庫県立大学の清原正義学長にも話を聞いていただき、激励の言葉を頂いたことも直接兵庫へ行ったからこそその事であったと思う。

また今回は Bridge・@GREEN・みやぎ食の応援団の三団体協賛で、被災者支援を目的とした活動を行っていることの周知を目指して出店した店舗の手伝いをする事ができたし、空いた時間でメリケンパークや東遊園地などの震災関連施設を案内してもらうこともできたので、約二日間の短い時間であったが充実させることができたので良かった。Bridgeのメンバーとも様々な話ができたし、にこまるの販売を含め、継続的な共同の活動を今後も行っていけそうだと感じたし、そのためには今回のように兵庫と宮城を行き来する事はとても重要になってくるだろうと思う。今回の活動で感じたことや学んだことは非常に多くあるので、それらを整理し生かしてこちらでの活動を行いつつ、次の兵庫との活動に備えたい。



一方、@GREEN は附属農場や加工棟での活動と並行し、仮設住宅において学生独自の活動も展開したいとの思いから、七タイイベントを企画した。内容は、流しそうめんと笹飾りづくりで、あすと長町の仮設住宅からは 27 名が参加した。学生たちは数日前から竹を切りに行って組み立て、当日は当時あすと長町に設置されていた「えんがわ」という PSC の現地拠点の仮設建物の窓から外に向け、高低差を利用して竹を組み、そうめんを流して楽しんだ。小さい子どもにも好評で、学生は大きな達成感ややりがいを感じることができた。



【七タイイベント：流しそうめんを楽しむ。（あすと長町仮設住宅）】

この頃から、PSC を含む被災者支援活動は徐々に縮小の方向となり、これまで被災者を大学に送迎してくれていた団体が活動から撤退した。仮設住宅の住民は自家用車を流され、車を持たない人が多く、送迎がなければ活動には参加できない、という方が多かった。一時は大学での活動をあきらめかけたが、活動の意義を認めて自家用車の相乗りなど被災者同士の助け合いが始まり、この後現在まで各自が自分の力で大学まで来て活動に参加されるようになったことは大きな転機であった。

2 代目代表 原 泰葉

第 3 章 2014 年

この年、初めて学生が主体となって正月に餅つきをすることになった。食産業学部では学生実習で餅つきをするため道具がそろっており、学生は経験もあるので、準備はすべて学生だけで行った。仮設住宅の住民は高齢者が多く、長くは杵をつけないが扱いには慣れているので、学生に対し適切なアドバイス（指示）が次々に飛んで、学生には大変良い経験になった。このイベントに参加したボランティア学生は 27 名。これまでで最大の数であった。仮設住宅からは 10 名が参加してくださった。

食産業学部では旗立キャンパスにも広大な圃場がある。学生実習のため水田も備えており、この年の田植えには被災者の方々にも参加を呼び掛けた。今時珍しい手植えに苦労し、その後学生と一緒に昼食を食べ、非常に楽しかったと好評であった。

この活動を始めた当初、農業活動は坪沼の付属農場を利用していたが、坪沼は物理的な距離もあることから、2014 年はガラス温室での栽培に挑戦することになった。園芸担当の菊地郁准教授の指導を受け、種まきから始めてハーブや花苗を育てた。並行して、食品加工棟ではみそ、ベーグル、ハム、ベーコンづくりなどにも挑戦した。宮城大学食産業学部では、学生は栽培から加工まで様々な実習を経験し、専門知識を身に付けていく。その力がボランティア活動に生かされ、被災者の支援に役立つことが、この活動の大きな意義と考え、この活動を進めた。



【田植え】

3 代目代表 古澤里奈

第 4 章 2015 年

震災から 4 年が経ち、被災者の生活も一定の落ち着きが出てきた。これまで大学や学生が支援してきた被災者から「恩返ししたい」との声が聞かれるようになり、この活動で作ったものを一般の学生に提供する試みを始めることになった。食産業学部の学生は、食を学ぶ立場にあるものの、一般的な大学生同様自分の食生活はかなりいい加減な人が多い。とくに朝ごはんを食べずに登校する学生に対し、朝ごはんの大切さを知ってもらって生活改善を意識させ、そこから意欲的な学究につなげたいという目的で「朝ごはんフェア」を行うことになった。提供するパンは被災者支援活動で焼き、そのほかに野菜スープ等を作って 1 限の講義前に配布することとした。この年以降、朝ごはんフェアは年に数回のペースで継続的に実施しており、学生には大変好評である。講義がなくても朝ごはんを食べにくるという学生もいるほどで、@GREEN の活動の大きな柱となっている。3 月に学長奨励賞受賞（2 度目）。



【朝ごはんフェア】

4 代目代表 大塚沙穂子

第5章 2016年

毎年恒例の餅つきに、仙台市長の奥山恵美子氏が視察にみえた（市長と地域の集い）。前年の11月ごろより学生と計画を詰め、当日は多忙な市長のため分刻みのスケジュールに合わせてもちをつき、また一緒に食した。その後市長と学生の座談会があり、学生がこれまでの活動についてプレゼンをした。学生たちは大変緊張したらしいが、引っ込み思案だった自分が市長の前でプレゼンをし、直接お話をさせていただけたという、自分の成長を実感できた一日となった。



【仙台市長 奥山恵美子氏の前で緊張のプレゼン】

さて、この年に、参加者から「参加費」を払いたいとの申し出があった。2013年に「送迎」がなくなった時、「自分たちの工夫で通う」という自立の一步があり、その後2015年に「朝ごはんフェアへのパンの提供」という形で「大学への恩返し」という進歩があり、震災から5年が経って被災者の意識がさらに一步大きく前進したと感じた。被災者支援は、最初は物質的な充足への手助けが中心になるが、最終的にはお一人お一人の精神的な自立・再生への意欲を引き出すような活動が理想であり、そういう意味でも本活動はもっともよい形で発展してこれたといえる。

本年も朝ごはんフェア、園芸活動、加工活動を行ったが、とくに園芸活動において、被災者の方たちがほぼ自分たちだけで大学の圃場の管理を行い、作物を育てて収穫することができたことが大きな成果であった。

この年、復興庁から声掛けがあり、11月に東北地区の学生ワークショップに参加。他大学のボランティア団体と意見交換を行った。これまで学内で活動してきた学生には大きな刺激となった。

5 代目代表 藤村有沙



【野菜の収穫。毎週管理に通い、豊作だった。】

第6章 2017年

@GREEN は毎年4月に新入生に向けて説明会を行い、多くの学生が登録して活動に参加してくれるが、他のサークルの掛け持ちや学業の忙しさから、継続して活動できる人は限られる。この年は、新代表を選ぶときに3年生に引き受ける人が見つからなかった。しかし、前年度入学した新2年生が大変熱心に1年間活動に参加し、意見もどしどし述べて主体的に活動に参加してきたため、初めて2年生を代表に置くことになった。さて、あすと長町仮設住宅は2016年に解体され、同地区には復興住宅を兼ねる市立住宅が建った。入居のため新しくこの地区に移ってこられた住民もあり、新たなコミュニティ形成が再度課題となった。地域の協働をめざしてNPO法人「つながりデザインセンター」が設立されたのは2016年10月のことであり、@GREEN はつながりデザインセンターの会員として活動に参加することとなった。この活動の中で、2016年11月から「復興住宅の共有スペースで食を提供する居場所づくり」としてのコモンミールが始まった。さまざまな団体がシェフを務め、毎月3回開催される。@GREEN は年に2回、シェフを担当することとなり、2月に初めての当番を受け持った。献立はミートボール、スープ、ヨーグルトでこの日の様子は後日NHKのてれまさむねで放映された。この年、一般社団法人学生サポートセンターの「学生ボランティア助成」に採択され（2度目）、2月に新代表の武田蛍さん（1年生）が授賞式に出席した。

6代目代表 金成裕子



【何度も試作を繰り返して決めた献立】



【コモンミール（あすと長町復興住宅にて）】

第7章 2018年

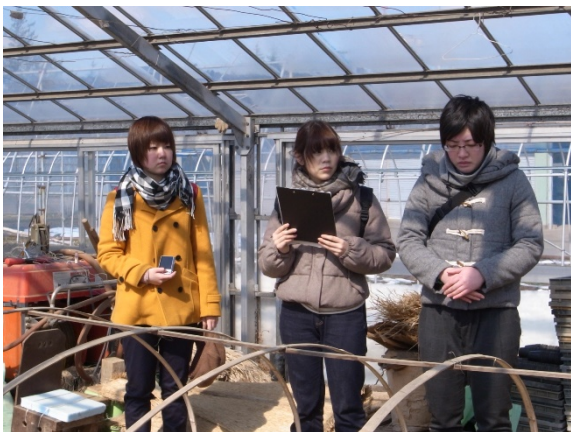
これまで活動を支えてくれた石田光春教授が、定年退職まで後1年となり、震災から8年になるのを区切りに、この活動を終了させることが検討された。学生はまだまだ続けたい意欲をもっていたが、費用面でも震災の翌年栄養改善学会から助成された「活動費」が残り少なくなり、2019年3月をいったんの区切りとすることにした。被災者の方たちと一緒に出店する大学祭も最後になるということで、初めて「デコパージュのワークショップ」を実施したところ、子どもたちを中心に大変好評であった。食品としては芋煮と大学芋を提供した。11月には代表の武田蛍さんが、@GREENの活動について、太白区まちづくりフォーラムにてポスター発表した。年末には恒例のクリスマスリース作り、フラワーアレンジメントも実施した。1-2月に学生達は今後のことを話し合い、3月にこれまでの活動をいったん終了するが、2019年以降は新しい形で再スタートすることを決定した。石田教授の特任教授就任も決まったので、被災者支援から一步進めて「市民協働講座」という形で今後も不定期に集まり、おいしいものを作って一緒に食べて、楽しい時間を共有する場を提供していく予定である。

7代目代表 武田蛍

第8章 学生たちからの言葉

1 代目代表小笠原聡美さん

お仕事が忙しく、文章はありませんが、当時の写真を載せておきます。



【附属坪沼農場で被災者の皆さんの活動計画を練る初代@GREENメンバー:2012年3月】

2 代目代表 原泰葉さん

私が代表をつとめた設立2年目は震災から3年が経過し、支援してきた仮設住宅の入居者が新たな住まいへと移りはじめ、今後の活動方針について模索しているときでした。この時期が重なったことで、ボランティアの目的や意義を立ち返り考える機会となり、復興ニーズに合わせて支援の形を変化させる必要を認識しました。

そこで私達の世代では、これまでの活動の柱であった農作業体験で育んできたコミュニティを継続させ、よりオープンなものとするために自主イベントの企画、そして阪神淡路大震災から復興を遂げた兵庫県との交流活動を開始しました。

活動する中で、私を含めメンバーにボランティアノウハウがなかったこと、蓄積が浅いまま世代交代が進むこと、新しい活動を始める中でメンバーの参加目的や意欲にばらつきが出ること等マネジメントの壁に何度もぶつかりました。私達の活動は物理的な支援ではなく、被災者へ社会とのゆるやかな繋がりをつくることであり、目に見えるゴールはないからこそ、継続が特に重要でした。そのためにメンバーの士気を保ち、息切れさせないペースのバランス調整には日々悩まされました。そうしたことから、私達より高度な活動内容をしていた兵庫県立大学のボランティア団体との交流は大変参考と刺激になりました。

運営を通じて得た学びは社会人となった今も財産になっています。学生は個々人の活動期間が限られる難しさはあるものの、学生だからこそ創造的な取り組みができるものと考えます。現在まで継続できたことを大変うれしく思うとともに、支えて頂いた先生方や関係者の皆様には本当に感謝しています。これからも被災地に身を置く宮城大学食産業学部だからこそできる社会貢献に期待しています。



【七夕イベント企画した原泰葉さん】

3代目代表 河崎里奈（旧姓古澤）さん

@GREEN の活動を振り返るにあたり、現在も@GREEN の活動が継続されて行われていることをとてもうれしく思います。

私が@GREEN の活動に興味を持ったのは大学入学後すぐでした。東日本大震災当時は私自身も避難をしていたこともあり、ボランティア側になる余裕もありませんでした。大学入学後に@GREEN の活動を知ったときはこの活動を通して私でも何かできることはないかと思いました。@GREEN の活動は季節の催しや学際での模擬店出店、マラソン大会のボランティアへの参加と多岐に渡りました。季節の催しは主に調理を行い、味噌作りやうどん作り、桜餅などを作りました。毎回あすと長町の参加者の方は楽しんで一緒に活動をしてくださり、次回は何をしようかと思いながら私たちも楽しい時間を過ごせました。震災以降なかなか気持ちが落ち着かない中で、活動中は楽しいひと時を過ごして欲しいと思っていたため参加者の方の笑顔を見ることができた、その時間こそがわたしがこの活動をして心から良かったと思った瞬間でした。



【みんなで餅つき】

4代目代表 大塚沙穂子さん

私が@GREEN に加入したのは大学1年生の時、震災から2年が過ぎた年でした。私たちのメインの活動は、募金を集めたり直接被災者の利益になることをしたり、というものではなく、学生と参加者の皆様が、料理や園芸を通して一緒に活動するというシンプルなものでした。活動が続けていく中で、震災から5～6年経ってから私たちの活動に参加したいと思ってくれる方が一人ではなく複数おられ、私たちが企画するイベントに参加しようと思うことができる程前向きな気持ちになるには、数年という時間が必要であるほど、震災が残した心の傷は深いものであると実感しました。そして震災から年月が経過していますが、被災者の方にとって必要なのは、当たり前のようにある「楽しみ」や「癒し」、「人とのつながり」なのではないかと思います。このように長期的なサポートが必要だと感じる反面、学生のモチベーションを維持して活動を継続するには難しさがありました。どこにいても災害の被害に遭う可能性がある現在だからこそ、防災、被災後のケア、どちらをとっても、もっと自分のことのように考える人が増えてほしいと考えます。



【学生のアイデア：ハイドロカルチャー】

5代目代表 藤村有沙さん

「私はね、津波にのまれたの」ある参加者の方がそうお話して下さいました。私は、やっとここからがスタートラインと感じました。活動に参加して下さいる皆さんの心が震災、復興と向き合う準備が出来てきたのかなと感じました。学生時代の私は、この活動は皆さんが本当に求めていることなのか、自己満足に過ぎないのではないかと、不安に思うこともありました。

しかし、徐々に震災時の状況やこの活動に何を求め、どう感じていらっしゃるか教えていただき、私自身も参加者の皆さんに相談をし、互いに笑い合い、とても楽しく活動させていただきました。大学卒業から2年たちましたが、@GREENでの活動は私の人生で大きな経験でした。私が見聞きしたことはほんの一部に過ぎませんが、今後も震災や震災後の出来事を多くの方と共有し、被災地の復興へ少しでも力になればと感じています。



【クリスマスリースを作りました】

6代目代表 金成裕子さん

@GREENに入部した理由は、ボランティアをやりたいという簡単な考えでした。入部当初は、高齢者と交流することに抵抗があり、活動に馴染めていないと感じていました。しかし、活動に来てくださる方々と交流していくうちに、楽しい、もっと仲良くなりたいという気持ちが大きくなりました。また、みんなで活動を盛り上げたい気持ちが大きくなり、代表を引き受けました。初めは、何もできずに周囲の人達にたくさん迷惑をかけ、壁にぶつかりました。それに当たる度に、改善策をメンバーや顧問の先生に相談してみんなで乗り越え、@GREENを良くなるように努力しました。その結果、代表をやって新しい自分になれたと思います。この活動を通して、辛かったことや悩んだことはたくさんあります。しかし、それは自分を成長することに繋がると感じました。私は、この団体に出会えて、幸せです。これからも@GREENを応援し続けてほしいです。



【朝ごはんフェアにて】

7代目代表 武田蛍さん

@GREENは「食は人をつなぐ」という経験が出来た学びの場、そして多くの方との出会いと温かさに触れ、つながりを得た場所でした。

食を作ること、食べること、その中での会話や協力し合ったこと、「おいしい」と皆の笑顔が溢れたこと。活動の中でこのような場面を経ていくうちに、互いの心をつないでいく食の力に気付かされました。また、活動のたびに名前を呼んで話しかけ、温かく迎えてくださり、最後には必ず「ありがとう」と言ってくださった皆様、悩んだ時に共に考え、支えてくださった先生方や@GREENのメンバーとの思い出は私の心の支えになる大切なものとなっています。この経験を通して私の中で、「食で多くの人をつなぎ、豊かな心と体をつくることに貢献したい」という思いが強くなり、将来を考える今の私の軸となりました。

活動を通してお世話になった皆様、先生方、@GREENのメンバー、本当にありがとうございました。



歩み

10月

「今朝焼いたばかりのクッキー、お一ついかがですか」

秋空が広がった13日、大学祭でにぎわう宮城大学の太白キャンパス（仙台市太白区）に、長町仮設住宅（同）の住民たちの姿があった。

「普段は部屋に閉じこもりがちだけど、孫みたいな若い子たちと話ができて楽しいわ」

キャンパスの一角に設けられた手作りクッキーの模擬店で、菊地成子さん（73）はにっこりと笑った。

模擬店は、同大食産業学

仙台・長町仮設住宅

宮城大の大学祭で手作りクッキーを販売する長町仮設住宅の住民と学生たち（13日、仙台市太白区で）



クッキー作り 学生と交流

部の学生25人で作るボランティア団体「@GREEN（アット・グリーン）」の呼びかけで実現した。学生たちとの交流は今年3月から始まった。暑さ対策のゴーヤの「緑のカートン」作りを手伝ってくれたり、同大の農場で一緒に野菜を育てたりしてきた。

「せっかくだから、収穫した野菜を商品にして販売したらどうか」。そんな思い付きから、ハロウィーンに合わせてカボチャのクッキーを作ることになった。

メンバーの一人、三瓶裕実子さん（21）は「最初はカボチャの量が分からず、難しかった」と話す。仮設住民たちと試作を繰り返し完成させた。

菊地さんも試作段階から参加した。震災直後には、津波で亘理町の自宅を失ったショックから、声が出なくなっていた。長町仮設住宅を選んだのも、病院が近くにあったからだ。知り合いが少なく、周囲との交流はほとんどなかった。「これではいけない」と思い、この春からは仮設住宅のイベント

トなどに出来るだけ顔を出すようにした。

「どんな人も、こちらから話しかければ、心を開いてくれる。今は仮設の友だちと朝のラジオ体操が日課なの」と菊地さんは言う。

大学祭には、長町仮設にも近い、民間住宅を借り上げた「みなし仮設」に住む松本茂さん（62）も顔を出した。「若い学生さんたちからパワーをもらったよ」と笑顔を見せた。

1袋1000円のクッキーは、用意した約350袋を5時間ほどで完売した。また一つ、震災を機に始まった交流の輪が広がった。

（鈴木絵里奈）

あすと長町仮設住宅入居者支援活動

**仮設住宅入居者のみなさんが、
宮城大学食産業学部・大学祭で
手作りパンプキンクッキーを販売します！**



暑い夏も農作業がんばりました！



加工棟で調理♥
みそやソーセージにも挑戦し
ています。



ファームビジネス学科の学生
ボランティアがお手伝いをし
ています！

NEWS!

日時：10月13日（土）

10時から15時

場所：宮城大学

食産業学部講義棟前

模擬店：「@グリーン」

皆さん買って
くださいね～。

Happy Halloween!



附属坪沼農場で収穫したカボ
チャを使っています♪

大学祭チラシ

みらいん ゆうかん

11月号

仙台市内で津波被害に遭われた被災者の方々らに向
 域かわら版です（みやきの版、わかばやし版、たい
 ん ゆうかん」では、みらいん編集部が被災地の現
 話題や情報を、月1回お伝えします。

URL <http://www.sendai-mirain.com/>

宮城大で農業・加工体験

仮設入居者に生きがいを

生ボランテアとカボチャのクッキーを作った。声掛けにも力が入ります!! 10月13日



農業プロジェクトには、ブレハア仮設住宅と民間借り上げ住宅（みなし仮設）など市内の仮設住宅入居者約20人が参加しています。

太田区・あすな町仮設住宅から参加している眞島さん(83)は、学生支援

笑みがこぼれます。自分
たちで作ったものが売れる
のはうれしい」と、喜びも
ひとしおの様子でした。

精神的な喜び、それは學
作業に従事できることには

「プロシエクトを支えてくれるのは、食産業学部ファロジエクトの集大成として、被験者が自分たちで作ったバナナのクッキーを販売した。用意した28袋は8時間余りで完売して、参加者の皆さの顔に、精力的な喜びのお手紙が返ってきた」。

「お土産にカボチャのクツキーいかがですか」
 「農作業でなくなったツキーという仮設住宅」
 10月13日、大学寮にきた居るの屋敷から始まりました。太田淳一郎にある同の農場の野菜栽培、みななへの加工食品作り、この農場から生きたツキーが目的です。

ていました。

と善しいの。愛顔を見せて
の楽しげな笑い声。

「取りも大勢けど、
なんだかん言ってるぢや
に終わるわね。」あんが
なんだかん言ってるぢや
に、他のみなが手動し
取組むぢやんす。

「だかあお30分くら
てな。」あう。んだか
増ったつながりを大切
に、和気ああいと作業
とるぢやんす。

は僕として参加するうちに
しているよ」と松本は
顔をほころばせる。佐
藤さんは「夏は暑さでた
えんど、みんな」精々

「他の仮設の人とはなかなか会える機会がないからね。農業プロジェクトに参加者の皆さんと会って楽しみたいと思います」

小笠原地区では、手
伝いに行っている方が
に、逆方向のものに
の方が多くです」と
ほほ笑みました。

また、島野区巨代の
みなし仮かり参加で
いる松本さん(62)、あ
る長町仮設住宅から参
加する

「ジャガイモの苗取りが、ロジックの一番の楽しみです。『自分の若い時の話』と意識しながら苗取りも楽しいね」と、元菜園作業に取り組みます。

ポラチーリガーデンの
枝豆収穫の様子。作業しながらも枝豆のおいし
しめの話に花が咲きます。

今月の1枚

広瀬川に^{そじょう}遡上するサケ

広瀬川下流域、宮沢橋と広瀬橋の間にある郡山堰（せき）にて。4年前に広大な太平洋へと旅立ったサケたちが、こつしも元気に故郷へと帰ってきました。彼らの子孫が見る4年後の仙台は、どんな復興の姿を見せてくれるのでしょうか。



の7日、被爆支援センター「みちのくふしナイン」が、太田区・あつち長町仮設住宅で一書会とお楽しみ会を開催。豪華な活劇を提供して頂きました。

14日 豊区：川戸公務員住宅の取壊に参加。敷地内畑で育てた野菜が豪華な舞ました。お土産にした取り入れたものシフトも、いっしょに！

15日 太田区：N十十三神楽家で開催されたあいひょう。お茶とお菓子を頂きながら、近所の話題を盛り上げました。

17日 若菜区：即卸丁自居仮住宅のいつも若しいMさん。その年の春指と菊指の色に染まっていたのを写真と雑誌で紹介したアロエを届けて、何年も前から園芸が好きだと、アロエの葉っぱをセロハンテープでお

10月

みらいん編集部ダイアリー

21日 北区：料理を食べてほしいと近郊野区。仙台市地方地区（仙台区）役所を訪ね。住民の皆さんは、福かどうかと、山椒、飯やお刺身を手紙を送った。ランマの表紙は80歳、「なんばへ、食べたらんさべ」と元氣よくお返事下さい。

21日 若菜区の区民センター。区内仮設住宅の皆さんが元気に手づから堅苦しくなど、ひとりで自立したのが小学生の男子。こらっちゃん。

一日ごきんす。ひとつひとつと来物のお土産です。

24日 北下区：取材させていたんだ鈴木島さんからお便りがきました。震災前住んでいた地域の方へ、記を通して家族の元気の様子をお知らせしたいとのお願いでした。

えんがわ通信

「童心に返ったみたい」と大喜び

七夕イベントで学生と被災者交流

「えんがわ」
スナッフ



七夕を楽しんでほしい。昨年度、PSCの農作業体験に関わった宮城大食産業学部が7月7日、コミュニティ・ワークサロン「えんがわ」(太白区)を訪れ、七夕飾りを作ったり、流しそうめんをしたりして、被災者と交流を深めた。

32度を超える真夏日となったこの日、「えんがわ」には、市内の仮設住宅の入居者ら27人が集合。参加者は学生とともに、短冊に願い事を書いたり、みんなで集まり、流しそうめんを食べたりして、楽しんだ。



▲学生ボランティアから七夕飾りの作り方を教わる参加者

参加者は「童心に返ったみたい」「楽しい」と大喜び。完成した短冊には復興への思いが書きつづられていた。



▶復興への願いを込めた短冊
▲30度を超える暑さの中、流しそうめんを味わう参加者



道行く学生らに積極的に声を掛ける参加者

仮設住宅入居者と大学生ら
コラボで油麩丼を販売

市内の仮設住宅に居る者と宮城大食産業学部との学生らでつくるボランティア「@GREEN」

販売した。

油麩餅は8月から9月にかけて、農業加工体験で学生と仮設住宅入居者が試作を繰り返し、完成させた。油麩は登米市、卵は仙台市内の会社から提供を受け、2000円で販売を実現した。

**家計の悩みを解決支援
みやぎ生協が相談室開設**

PSCの連携団体の一つ「みやぎ生協」（泉区）は9月中旬、宮城野区榴岡に「くらしと家計の相談室」を開設し、生活困窮者らの家計やお金などに関する相談や支援をする「生活相談・家計再生支援貸付事業」を始めた。相談室には、職員5人

が常駐。専門のスタッフが、家計の見直しや改善のためのアドバイスをするほか、公的貸付制度や弁護士との紹介なども行う。20歳以上の組合員で、家計収支が見あう人であれば、生活資金の貸付（上限300万円・金利9%（期間5年））も受けるこ

とができる。

みやぎ生協によると、相談室にはこれまで170件以上、相談が寄せられた（10月12日現在）。貸し付けに関する相談が最も多く、組合員の債務解消や教育費、生活費などのために、800万円以上の融資をしたという。



▶慣れた手つきで、油麩
丼を仕上げる参加者



▶調理の様子。厨房には香ばしい匂いが漂った

入居者は、大きな段ボールをぶらさげ、「おひとついかがですか」などと道行く学生らに積極的

声を掛けた。
5日は、約80食を販売し、6日の大学祭終了時には、大学祭内の売り上げランキングで3位に食い込むほど、売れ行きは良かった。
販売を担当した仮設住宅入居者の男性は「実際に学生と作り上げた油麩丼を販売できるのうれしいうえ、調理を担当した男性は、『学生や地域住民と交流を持つことができて良かった』などと話していた。

宅入居者の男性は「実際に学生と作り上げた油麩井を販売できるのはうれしい」、調理を担当した男性は、「学生や地域住民と交流を持つことができて良かった」などと話していた。



河北新報 2016.1.15



河北新報 2017.3.13

@GREEN 活動記録

年	月日	内容	参加者数	PSC	学生ボラ数
2012	4月24日	農作業	6	2	
	5月8日	農作業	7	2	
	5月15日	農作業	8	2	
	5月25日	ソーセージ作り	9	2	7
	6月5日	農作業	6	2	
	6月12日	農作業	7	2	
	6月29日	味噌作り	9	2	3
	7月3日	農作業	5	2	
	7月10日	農作業	6	2	
	7月17日	農作業	4	2	
	7月27日	パン作り	5	2	
	7月31日	農作業	4	2	
	8月7日	農作業	2	2	2
	8月21日	農作業	5	2	4
	8月28日	農作業	7	2	5
	9月4日	農作業	5	2	4
	9月11日	農作業	6	2	3
	9月18日	農作業	5	2	6
	9月21日	クッキー作り	11	2	4
	10月2日	農作業	7	2	
	10月9日	農作業	5	2	
	10月12日	大学祭クッキー販売	11	2	多数
	10月13日	大学祭クッキー販売	9	2	多数
	10月30日	農作業	11	2	
	11月16日	ジャム作り	13	2	3
	12月8日	仙台マルシェ販売参加	2	2	1
	12月11日	スモークチキン仕込み	14	2	1
	12月18日	スモークチキン仕上げ	10	2	
	2月26日	肉まんづくり	15	2	8
	3月28日	そば・うどん作り	15	2	
2013	4月17日	寄せ植え製作	1	1	6
	5月15日	季節の種まきとイチゴ苗植え付け	10	3	6
	6月19日	ポット苗作り	7	2	6
	7月1日	梅仕事(梅干作り)	11	2	4

@GREEN 活動記録

年	月日	内容	参加者数	PSC	学生ボラ数
	7月5日	野菜苗植え	13	2	2
	7月7日	七夕イベント: 流しそうめんと笹飾り @あすと長町	27	3	12
	9月19日	油麴井試作	6		5
	9月25日	野菜畑の整理・監理、寄せ植え	4		3
	9月26日	油麴井試作	4		14
	10月5日	大学祭油麴井販売	2		15
	10月1日	園芸	5		3
	11月27日	園芸	6		1
	11月29日	ソーセージ作り	7		1
	12月10日	チキン仕込み	10		1
	12月17日	チキン、うどん、そば	8		1
2014	1月17日	餅つき	10		27
	2月27日	味噌作り	13		5
	3月17日	寄せ植えの品種を選ぶ、イチゴ狩り	9		3
	3月24日	和菓子づくり	13		8
	4月14日	種まき	11		1
	4月25日	ベーグルづくり	13		9
	5月17日	田植え	4		5
	5月23日	ジャム作り	15		2
	5月30日	花の定植と野菜栽培の準備	13		7
	6月13日	苗の移植と野菜を植える畔の準備	11		4
	6月27日	ハムとベーコンの仕込み	13		
	7月3日	花の寄せ植えと挿し木による繁殖	13		4
	7月18日	ハムとベーコンの仕上げ	13		
	8月11日	花の寄せ植え・野菜の収穫	11		5
	9月5日	大学祭用クッキー試作	11		10
	9月11日	ヒースの植え替え	8		1
	10月17日	大学祭準備	12		5
	10月18日	大学祭にてクッキー販売	9		多数
	10月19日	大学祭にてクッキー販売	5		多数
	11月19日	フラワーアレンジメント	12		1
	11月28日	肉まん・アンマンづくり	13		2
	12月5日	ローストチキン仕込み	15		

@GREEN 活動記録

年	月日	内容	参加者数	PSC	学生ボラ数
	12月12日	チキン仕上げ/うどん・そば・ピザ・スープ	11		4
	12月19日	クリスマスリース作り	17		1
2015	1月14日	餅つき	4		12
	2月23日	味噌作り	14		2
	2月27日	野菜の種まき	13		4
	3月16日	かまぼこづくり	10		1
	3月25日	ハイドロカルチャーを作ろう	15		6
	4月24日	和菓子づくり	11		
	4月27日	野菜のポットへの移植	11		
	5月22日	イチゴジャムとパン作り	19		
	5月28日	野菜栽培の手入れ	16		3
	6月17日	畑の手入れ、寄せ植え	14		5
	6月17・18日	朝ごはんプロジェクト	5		4
	6月24日	梅干し、らっきょう作り	14		1
	7月2日	ヒースのさし木	10		
	7月10・22日	ハム・ベーコン作り	10		
	8月3日	野菜の手入れと収穫	9		
	8月20日	大学祭 試作(キムチチゲ)	12		3
	9月18日	おはぎ作り	11		3
	10月10日	大学祭 打合せ	7		
	10月11・12日	大学祭 キムチチゲ販売			
	10月30日	プリン・アイス作り	13		3
	11月10日	朝ごはんフェア スープ作り			
	11月11日	朝ごはんフェア	100		
	11月17日	クリスマスリース作り	12		
	11月27日	チキン仕込み	15		4
	12月4日	チキン仕上げ パン作り・うどん・がんづき	14		4
	12月14日	フラワーアレンジメント	18		3
2016	1月13日	市長をお迎えしての餅つき・座談会	7		11
	2月19日	キャベツ・白菜・ブロッコリー収穫、種まき	14		2
	2月23日	味噌作り	18		1

@GREEN 活動記録

年	月日	内容	参加者数	PSC	学生ボラ数
	3月15日	ちらし寿司と団子作り	16		多数
	4月1日	園芸 ポット苗(野菜苗のポットあげ)	15		3
	4月22日	フランスパン	17		15
	4月25日	朝ごはんフェア	100		8~10
	5月20日	かまぼこづくり	16		13
	5月23日	朝ごはんフェア	100		8
	5月25日	メニュー研究・調理研修			8
	5月26日	小松菜・ほうれん草の収穫 野菜栽培の管理	15		5
	6月1日	下の畑の手入れ	9		3
	6月17日	梅干し、らっきょう作り	18		6
	6月29日	朝ごはんフェア準備 スープ作り			4
	6月30日	朝ごはんフェア	100		6~7
	7月22日	豆腐作り	16		3
	7月28日	朝ごはんフェア	100		14
	7月28日	リース作り	14		2
	8月25日	園芸	12		3
	9月1日	大学祭 試作	10		10
	9月16日	パン・うどん・おはぎ 作り	12		1
	9月29日	大学祭用 香り袋作製	7		3~4
	10月3日	野菜栽培	12		2
	10月15・16日	大学祭(豚汁・香袋・フィギュア販売)	7		7
	10月21日	パン・ジャム作り	15		
	10月23日	マラソンボランティア			17
	10月29日	コモンミール			4
	11月6日	リース作り	13		5
	11月8日	朝ごはんフェア	100		7
	11月9日	コモンミール			3
	11月12日	復興庁学生ワークショップ			4
	11月19日	コモンミール			2
	11月25日	チャーシューとラーメン作り	15		3
	12月7日	フラワーアレンジメント	15		4
	12月13日	朝ごはんフェア	100		4
	12月16日	ローストビーフ作り	16		3

@GREEN 活動記録

年	月日	内容	参加者数	PSC	学生ボラ数
	12 月 18 日	コモンミール			2
2017	1 月 11 日	コモンミール	100		3
	1 月 20 日	餅つき	7		10
	1 月 21 日	コモンミール			2
	2 月 18 日	コモンミール			5
		復興庁 意見交換会			1
	2 月 23 日	種まき	14		2
	2 月 28 日	味噌作り	14		3
	3 月 24 日	粕漬け・甘酒	14		4
	4 月 5 日	朝ごはんフェア	100		5
	4 月 25 日	園芸 ハウス野菜収穫	不明		3
	4 月 26 日	餃子作り	14		13
	5 月 8 日	朝ごはんフェア準備			2
	5 月 9 日	朝ごはんフェア	100		7
	5 月 23 日	園芸	10		2
	5 月 24 日	柏餅作り	11		1
	6 月 14 日	朝ごはんフェア	100		5
	6 月 21 日	パウンドケーキ作り	10		4
	7 月 12 日	朝ごはんフェア	100		5
	7 月 19 日	くるみパン・水ようかん	9		2
	10 月 7・8 日	公立大学学生大会 LINKtopos 2017 in Osaka			1
	10 月 8・9 日	大学祭(ハヤシライス・クッキー・くるみ・フィギュア販売)	7		12
	10 月 18 日	ベーコン作り	10		3
	11 月 9 日	朝ごはんフェア	100		5
	11 月 21 日	リース作り	13		5
	12 月 1 日	クリスマスチキン 仕込み	9		3
	12 月 8 日	クリスマスチキン 仕上げ			
	12 月 14 日	朝ごはんフェア	100		5
	12 月 21 日	フラワーアレンジメント	11		5
2018	1 月 24 日	餅つき	8		7
	2 月 21 日	味噌作り	8		1

@GREEN 活動記録

年	月日	内容	参加者数	PSC	学生ボラ数
	4月18日	甘酒・ヨーグルト・チーズ・パン・パウンドケーキ	9		13
	5月6日	田植えイベント	4		10
	5月8日	朝ごはんフェア スープ作り			11
	5月9日	朝ごはんフェア	100		11
	5月23日	ピザ・スープ・サラダ作り	8		11
	5月27日	コモンミール			3
	6月20日	梅干し、らっきょう作り	9		
	6月26日	朝ごはんフェア スープ作り			7
	6月26日	玉ねぎ 収穫	9		
	6月27日	朝ごはんフェア	100		16
	7月18日	パン・白玉ずんだ・ずんだシェイク	8		13
	7月25日	朝ごはんフェア	100		
	8月11日	コモンミール 試作			
	8月18日	コモンミール			5
	9月26日	デコパージュ作り 芋煮・大学芋試作			
	9月30日	シェアハウス ワークショップ			3
	10月6-8日	2018LINKtopos 静岡参加			1
	10月13・14日	大学祭	6		15
	11月10日	大学祭お疲れ様会	7		16
	11月11日	太白区まちづくりフォーラム ポスター発表			1
	11月21日	肉まん・あんまん作り	9		
	11月28日	クリスマスリース作り	11		6
	12月4日	朝ごはんフェア スープ作り			9
	12月5日	朝ごはんフェア	100		13
	12月15日	シェアハウス 鍋パーティー			5
	12月19日	パウンドケーキ・フォーチュンクッキー作り	9		9
	12月20日	フラワーアレンジメント	9		5
2019	1月9日	餅つき	9		多数
	3月7日	ちらし寿司・吸い物 味噌仕込み	9		3
	3月9日	コモンミール			6

@GREEN 活動記録

年	月日	内容	参加者数	PSC	学生ボラ数
	3 月 10 日	シェアハウス			1
	3 月 28 日	種まき	8		1

謝辞

本活動は栄養改善学会からの助成を受けました。ここに深謝いたします。

発行：2020年3月

発行人：宮城大学食産業学群食資源開発学類

教授 森本素子